

WUWHS理事長からのご挨拶

長崎大学医学部 形成外科 秋田 定伯

第4回世界創傷治癒学会連合会議 (The 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies, WUWHS2012) が2012年9月2日～6日パシフィコ横浜において世界52ヶ国5,000名を越える参加者を迎えて開催することができました。会議の実現に向けて、多くの方々のご助言と提案、協力を賜りましたことに、感謝を申し上げます。事務総長として、第3回学会期間中、開催の誘致合戦への参加から、第4回会長の波利井清紀教授、名誉会長の大浦武彦名誉教授、その他形成外科理事、創傷関係の重鎮の先生方に支えられ 無事創傷治癒関連の学会では世界一の規模の学会を開催することができました。恒例では、世界創傷治癒学会連合 (World Union of Wound Healing Societies, WUWHS) の理事長は、次期学会開催までの4年間を会長がその任を引き継ぐ事になっておりますが、第4回会議の会長の波利井清紀教授からの温かいご支援で事務総長の私が引き受けさせて頂きました。2012年から第5回会議の2016年までの4年間、一期のみの職責ではありますが、既に3/4の期間が過ぎました。アジア地区からの初のWUWHS理事長として、発展著しいこの地区を世界的な創傷治癒・治療のネットワークとして発展させようと活動してきております。北京、バンコク、高雄にWUWHSとAWT (Academy of Wound Technology)(創傷技術アカデミー)の、特にアジア地区でのAsian Academy of Wound Technology, AAWTとの共催で各々の現地大学(北京大学形成外科、タイSiriraj Hospital (Faculty of Medicine, Mahidol University), Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital) (写真1 MOU調停の様子)などのfacultyと共にworkshop及び講義で知識と技術・実践の啓発と相互理解を深めて、workshopの参加者は新規技術の習得や実践経験

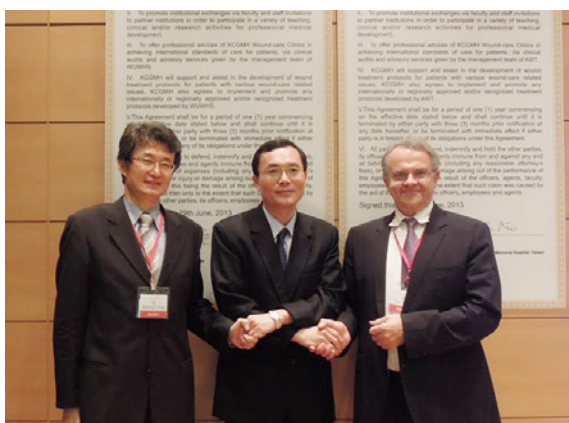


写真1：Kaohsiung Chang Gung Memorial HospitalでのMOU交換



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2015.9
No.89

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

を小規模のworkshopを通じて得る事ができ、interactiveにinstructorとで意見交換が可能となります。Workshopは可能な限りwet labとしてlive animalを用いた創傷モデルの作成と創傷技術の実践をhands-onで経験する事、live animalが不可能な場合でもanimal modelを用いた創傷技術の習得hands-onを普及啓発しております。参加者にはcertificateを発行し、一定レベルの研修プログラムを実施しました(写真2, 3)。また、マレーシア クアラルンプール国際学会期間中にアジアの創傷専門家をオーストラリア、マレーシア、香港、中国、タイ、フィリピン、シンガポール、スリランカ、インドネシア、インド、台湾とフランスを含めて20名を越える参加者と共に今後のアジア地区での教育プ

ログラムと創傷啓発の進め方を検討しております(写真4)。これら検討会はフィリピンでの第2回目の会議、台北での第3回会議に引き続き、再度クアラルンプールでのアジア地区重点化構想諮問委員会会議開催にまで引き継がれております。

更に、世界基準の創傷治療、教育を推進するための国際創傷ガイドライン作成検討会議(写真5)がイギリスのサウスハンプトンで開催され、International Journal of Lower Extremity Wounds誌の編集長のProfessor Raj Mani 以下、アメリカ、中国、エジプト、トルコ、インド、フランス、日本、次期学会開催会長のイタリアProfessor Marco Romanelli等も参加して、2016年第5回会議までには報告予定です。WUWHsが学術・実践の両面から取り



写真2 : Mahidol University (Thailand)でのworkshopのcertificate



写真4 : Kuala LumpurでのInternational Wound Conference期間中の専門家会議



写真3 : Kuala LumpurでのInternational Wound Conferenceのpre-conference certificate



写真5 : Southamptonでの国際創傷ガイドライン作成検討会議での集合写真

組んだ初めてのガイドラインであり、今後の世界創傷へ一定の方向性を付けて参ります。特にアジア地区から、インド、中国、日本と多く参加しておりますので、アジアと世界の連携が計れる事と思えます。

第5回世界創傷治癒学会連合会議はイタリアのフィレンチェで2016年9月25日～29日まで開催さ

れます。日本創傷治癒学会も supporting societyとして、多くの演題発表、参加を期待されていると共に、今回から企画された sister societyとして9月25日にサテライト会議を開催することにもなっておりますので、宜しく御協力お願い申し上げます。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume23 Issue No.3に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの右側にあるナビゲーションバーより、〈JOURNAL MENU〉⇒〈FOR CONTRIBUTORS〉⇒〈Author Guidelines〉をクリックいただくか、以下のURL先を直接検索窓にコピー＆ペーストして入手ください。

[http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/\(ISSN\)1524-475X/homepage/ForAuthors.html](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1524-475X/homepage/ForAuthors.html)

なお、投稿方法については、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

真田 弘美 先生(東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野)

峰松 健夫 先生(東京大学大学院医学系研究科 創傷看護学分野)

仲上 豪二郎 先生(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)

須釜 淳子 先生(金沢大学医薬保健研究域 保健学系臨床実践看護学講座)

「Vibration inhibits deterioration in rat deep-tissue injury through HIF1-MMP axis」

P.386～393

腹痛、腹部膨満感に

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

100

ダイケンチュウトウ
ツムラ大建中湯
エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載



- 腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感に効果があります。^{1)~4)}
- 次の3つの機序による腸管運動亢進作用を示します。
 - 1) セロトニン3型、4型受容体を介するアセチルコリン遊離促進(イス、ラット、*in vitro*)^{5)~7)}
 - 2) 消化管運動亢進ホルモンであるモチリンの分泌促進(ヒト)⁸⁾
 - 3) 知覚神経におけるTRPV1チャンネルを介した作用(*in vitro*)⁹⁾
- CGRP、アドレノメデュリンを介して腸管(小腸、大腸)血流量を増加させます。(ラット)¹⁰⁾¹¹⁾
- アドレノメデュリンなどを介した抗炎症作用を示します。(マウス)¹²⁾
- 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告されました。(ラット)¹³⁾
- 重大な副作用は、間質性肺炎、肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)です。

TRPV1 : transient receptor potential V1 CGRP : calcitonin gene-related peptide

効能又は効果

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

用法及び用量

通常、成人1日15.0gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(全文記載)

1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。] 2.重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。3.副作用 副作用発生状況の概要 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,284例中、64例(1.9%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明): 咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)肝機能障害、黄疸(頻度不明): AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTPの上昇等に伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。(2)その他の副作用

	頻度不明	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}			発疹、蕁麻疹等
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP、 γ -GTP等の上昇を含む)		
消化器	腹痛	悪心、下痢	腹部膨満、胃部不快感、嘔吐

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4.高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。 5.妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。 6.小児等への投与 小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

*その他の詳細につきましては製品添付文書をご覧ください。

[文献] 1) Yoshikawa, K. et al. Surg Today. 2012, 42(7), p.646. 2) 壁島康郎ほか. 日消外会誌. 2005, 38(6), p.592. 3) 三木智雄ほか. Prog Med. 2000, 20(5), p.1110. 4) Horiuchi, A. et al. Gastroenterol. Res. 2010, 3(4), p.151. 5) Shibata, C. et al. Surgery. 1999, 126(5), p.918. 6) Satoh, K. et al. Dig. Dis. Sci. 2001, 46(2), p.250. 7) Tokita, Y. et al. J Pharmacol Sci. 2007, 104(4), p.303. 8) Nagano, T. et al. Peptide Science 1998, 1999, p.329. 9) 株式会社ツムラ社内資料 10) Kono, T. et al. J Surg Res. 2008, 150(1), p.78. 11) Kono, T. et al. J Gastroenterol. 2011, 46(10), p.1187. 12) Kono, T. et al. Journal of Crohn's and Colitis. 2010, 4(2), p.161. 13) 香取征典ほか. Prog Med. 2012, 32(9), p.1973.



株式会社 **ツムラ**

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2013年1月制作)

■使用上の注意等の改訂には十分ご留意下さい。 VO-1001